

第20回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成20年5月27日(火) 18時00分～20時30分
場所	フローラ西船 5階 ダイヤの間
参加者数	51名
出席委員	14名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、澤田洋一、上野菊良、竹川未喜男、三橋福雄、後藤隆、佐々木洋晃、松崎利光、下原慶啓、増岡洋一、鯉淵彰) : 委員長
結果要旨	
<p>護岸検討委員会設置要綱の一部改正・委員紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1により事務局から説明があった。 <p>[主な意見]</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 行政関係者の代理出席に関し、代理の方も欠席することのないようお願いしたい。 <p>第19回委員会の開催結果概要</p> <p>資料2により確認した。</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の文面では、よくわからない部分が幾つかある。後の論議の中で確認したい。 <p>平成20年度委員会開催予定</p> <p>資料3により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 護岸検討委員会の委員としての要望だが、再生会議に関して臨時で開催するなど考えてほしい旨、再生会議へ伝えてほしい。 <p>緑化試験実施計画案</p> <p>資料4により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度完成断面について、天端だけではなく、のり面までを試験範囲に含めてほしい。資料の表現に整合性が取れていない箇所がある。 平成18年度完成部と平成20年度施工部とでシートを変えている。シートについて教えてほしい。 <p><三橋委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 購入砂の詳細について教えてほしい。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> 試験の実施に際しては、市民及び小中学生にも声を掛けるとよい。 購入砂については、思わぬ副作用を及ぼさないよう十分配慮してほしい。 	

- ・越波した場合の砂の流出に関し、鉄鋼の枠を組んだだけで予防になるのか疑問がある。

事務局回答

- ・試験範囲の表現について、修正する。
- ・シートに関して、平成18年度完成部は、保水性を考慮して不透水性シートにし、平成20年度予定部は、施工性を考慮し吸出し防止シートにしている。
- ・購入砂は土木用資材としての洗砂を考えている。

< 榊山委員 >

- ・袋については、破れなければ砂は流れないと期待するが、平成20年度予定部については、砂を洗うぐらいの大きな波が2年間に来るか来ないか、それも試験の目的として観察すればよい。

< 竹川委員 >

- ・たくさんの砂を扱うのではないので、越波の問題に関して、それほど多い砂の量ではないと思う。

< 後藤委員 >

- ・平成18年度完成部の試験は、将来的にどのように役立つのか疑問である。平成20年度予定部については、もう少しのり面まで施工した方がよい。次への展開をどう読むのか多少認識しておいた方がよい。

< 遠藤委員長 >

- ・最初はAP+3.0mより少し上のレベルまで施工する案だったが、その後検討を進め、だんだん上の方になってきた。基本的には、AP+3.0m以上は飛沫は上がるかもしれないが、実質的には波はあまり上がってこない部分である。検討内容について再度確認する必要がある。

事務局回答

- ・打上高を計算した結果、AP+4.5mまで打上ることがわかったため、それより上の天端部分とした。

< 三橋委員 >

- ・H鋼は固定するのか

事務局回答

- ・固定はしない。H鋼の自重でもたせることを考えている。

< 倉阪委員 >

- ・平成20年度予定部の部分は、APでいうとどこまで砂が入るのか。

事務局回答

- ・AP+5.0mからAP+5.4mぐらいの間である。

< 倉阪委員 >

- ・計算した結果、AP+4.5mまで打上るといことなので、そこまで施工する案もあると思う。

事務局回答

- ・ A P + 4.5mより上に来ないかというところでもないので、砂の流れ出しを最小限に抑えるため、今の提案をしている。

< 佐々木委員 >

- ・ 平成18年度完成部の試験が、平成20年度予定部の試験にどのように生かされてくるのか。
保水性がない中で、植物の選定について目安がついているのか。また、平成20年度予定部のシートをどのように張って安定させるのか聞きたい。

事務局回答

- ・ Aゾーンは基盤の厚さが30cm程度で非常に厳しく、例えばこのような石の置き方になった場合に、どのような植生で緑化できるのか確認する意味合いがある。
- ・ 植物の目安について、県中央博物館の先生に伺ったところ、ハマボスやイワダレソウなら可能性はある旨意見をいただいた。
- ・ シートの安定については、被覆石一層目の上に細かな石を敷いて平らにする予定にしている。

< 後藤委員 >

- ・ 被覆石一段目を積んだ後平らにするのなら、思い切って、捨石の上にシートを入れて立ち上げてはどうか。

事務局回答

- ・ シートが破れるのを防止するため、上に載る石の重量を軽減する必要がある。また、県中央博物館の先生によると、基盤が70cmから80cm程度あればいいのではないかとのことだった。

< 三橋委員 >

- ・ 植物の根がシートに穴を開けることはないのか。

< 遠藤委員長 >

- ・ 三番瀬海浜公園で自生している植物は、どのくらいの深さまで根が行っているのか。

事務局回答

- ・ 根の長さは確認していない。シートを突き破るにしても、逆に目が詰まってくる方向になるので、砂に対しては抜けづらくなるだろうと考えている。

< 遠藤委員長 >

- ・ 実施にあたっては、植物の根に関し、シートの強度との関係、根の深さなどを検討課題として入れておくこと。

< 上野委員 >

- ・ H鋼はポットを置くようなもの。1時間に50mm以上の雨が降ればあふれ出るだろう。平成20年度完成部においては、岸壁に近いところは被覆石を置かず、砂だけを入れてもいいと思う。

< 遠藤委員長 >

- ・ 護岸の安定上の問題があるので、ある程度の重量は必要である。

<後藤委員>

- ・石がいらぬのではないかという議論は、バリエーションの方ですればいいと思うが、石を抜くのは非常に危険なことである。
- ・のり面の部分に少し広げることに関し、平成20年度予定部は議論の余地があるので、検討いただきたい。平成18年度完成部はこの案で実施してみてもいいと思う。

<倉阪委員>

- ・平成20年度予定部は、のり面までできる限り下ろした方が景観上いいものができると思う。試験の段階で下ろしておかないと、本施工で下ろせない。

<榊山委員>

- ・砂の量を算出して、全部流れ出た場合どのくらいになるのか確認し、問題になるのかということ判断した方がよい。

<遠藤委員長>

- ・恐らく流れ出た時には、護岸の中に全部入るのではないと思う。

<佐々木委員>

- ・AP+4.5mを越える波というのは、大体3年に1回くらいである。横幅を狭くしてAP+4.5mまでのり面で試験した方が有意義である。洗われるのも試験のうちだと感じる。

事務局回答

- ・確かに景観的にみればのりの先の方まで行った方がいいのかもしれないが、植生を把握することと、基盤の状態を確認することという目的から考えると、この内容で足りていると判断している。

<工藤委員>

- ・一番大事なことは、いかに2年間試験して、どういうデータを取って、考えるかということである。

<下原委員>

- ・AゾーンとBゾーンとで、種まきと移植の時期を合わせておかないと、比較にならないのではないか。

事務局回答

基盤のできる時期がAゾーンとBゾーンとで異なっていて、Aゾーンの方が早くできる。できるものについては早くやりたい。また、種の種類によっては冬を越さないといけぬものもあり、それを考慮した。

<倉阪委員>

- ・やはりAP+4.5mまでの試験を考えてほしい。

<榊山委員>

- ・斜面の部分で砂が保てるか試験する必要があると思うので、もう少し下げた方がよい。

< 遠藤委員長 >

- ・少し精査して、のり面の部分まで延長することを検討すること。また、雨滴の作用で、飛び出さないよう砂を袋に入れるなど工夫をすること。

< 竹川委員 >

- ・自然の植生を中心に考えるのか、特定の種目をメンテナンスし維持していくのか。

事務局回答

自然のままにしておく。新たに侵入してくる植物があれば、その経過を観察することを考えている。

< 遠藤委員長 >

- ・平成18年度完成部は、事務局案で進め、平成20年度予定部については、のりの下の方まで検討を加えること。再生会議へ報告する前に、検討しまとめたものを委員に示すこと。

砂つけ試験実施計画案

資料5により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

< 澤田委員 >

- ・砂地の良好性について、アサリで確認するとなっているが、変である。変えた方がよい。

事務局回答

砂地の良好性をアサリで確認するという表現は、削除する。

< 竹川委員 >

- ・砂つけの意義を確認したい。砂の移動に関し、これまでのモニタリング結果から、どのように想定しているのか。

< 遠藤委員長 >

- ・砂が動かないという想定で、生物相がどのように再生するかをみる。ただ、砂の移動という要素もあるので、対応しながら試験しようということである。

< 後藤委員 >

- ・砂を入れた場合に、どのような生物がつくか確認するのが第一目的である。砂の挙動は観察するくらいで、あまり重きを置かなくていいと思う。

< 倉阪委員 >

- ・どのような砂を置くのか確認しておいた方がよい。目処はあるのか。

事務局回答

砂は、現地の砂と同様、中央粒径が0.03 mmから0.2 mmに近い砂、もしくはもう少し粒径の大きな砂の使用を考えている。

< 榊山委員 >

- ・砂は流れるものと考えているが、澤田委員から心配などがあればお聞きしたい。

<澤田委員>

- ・一番心配なのは、ウミグモである。砂をほかの場所から持ってくるのではなく、できれば三番瀬の中の砂を使ってほしい。

事務局回答

近隣の砂が必要量あればそこから持ってくるし、もし無ければ一般土木資材としての洗砂を持ってくる。中に入っている動植物については、十分調査する。

<遠藤委員長>

- ・近くの砂の方が、そこに再生するであろう生物が入っている可能性がある。

<上野委員>

- ・砂をつけると人が下りられる場所になり、生物も結構捕られてしまう。立ち入ることに関し、ルールづくりの始まりの議論にしてほしい。

<後藤委員>

- ・砂じりの海水がヤスリみたいになって、生物を傷める可能性がある。石積みと砂の間にネットを入れるということを明記してほしい。

<工藤委員>

- ・砂を投入する際の汚濁防止膜の設置について、明記しておく必要がある。

<遠藤委員長>

- ・砂つけ試験について、実施の方向で再生会議に上げることとする。

春季モニタリング調査の結果概要

資料7により事務局から説明があった。

その他

<事務局>

- ・勉強会を6月下旬、次回委員会を7月下旬に開催することで調整を進める。

<遠藤委員長>

- ・副委員長を引き続き倉阪委員にお願いしたい。

合意された。

傍聴者からの意見

- ・洗砂には山砂も含まれるのか。

事務局回答

山砂もあるし海砂もある。どちらを使うかはまだ決定していない。

- ・地球温暖化が世界的な問題になっている。海面面積を減らすのは、地球温暖化対策に逆行する。新たに海浜をつくることは疑問に思う。
- ・砂つけに関し、試験を行う前に生物の種類と個体数を把握しておいてほしい。
- ・砂付けには三番瀬にある砂を使用してほしい。
- ・緑化に関し、いろいろな植物で試験してほしい。